

銀座で地産地消

伝統ある老舗や国内外の高級ブランドショップが立ち並ぶ日本有数の繁華街・銀座。そのオフィスビルの中や屋上で、意外な生産活動によって生み出されている「銀座名物」とは。

写真提供●銀座ミツバチプロジェクト
 撮影●栗原 論 (P21)



1. ビルの屋上で採蜜を行うスタッフ
2. 花の蜜を集めた蜂たちが巣箱に戻ってくる
3. プロジェクト理事長の田中淳夫さん
4. ハチミツは百貨店をはじめさまざまな店舗で販売される

©NaokoYamamoto

都心に蜜を運ぶ 銀座ミツバチプロジェクト

2006年、「都市と自然環境の共生」をテーマにかかげ、銀座の企業人や商店主によって発足した銀座ミツバチプロジェクト。地上45mのビルの屋上に置いた巣箱から始まった取り組みは、地道に活動を続けて規模を広げ、現在は4カ所のビルの屋上に養蜂場を構え、年間約1tのハチミツを採取する一大生産拠点を築くに至った。

そもそも、「銀座で養蜂ができるのか？」と疑問に思う人は多いかもしれない。だが、実は銀座はミツバチの飼育に適した土地。ミツバチが銀座から飛んで行ける範囲には皇居や日比谷公園など蜜源となる植物が豊かな場所が多数存在する。また、農薬が散布されることもなく、冬もそれほど寒くないなど、銀座にはミツバチを育てるための好条件が揃っているのだ。

ハチミツを使ったケーキやカクテルといった、オリジナル商品をつくるお店も増え、ハチミツは銀座の新しい特産物として成長し続けている。